

---

# 平成20年度事業報告 及び歳入歳出決算の概要

## 血液事業特別会計



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



# I . 事業報告について

# 血液センター(Blood Center)の概要

血液センター …… 地域における血液事業の拠点

血液センター数 …… 47都道府県に65カ所

出張所 …… 141カ所 (献血ルーム111を含む)

車両 …… 移動献血車299台、献血運搬車761台

\* 平成21年3月31日 現在

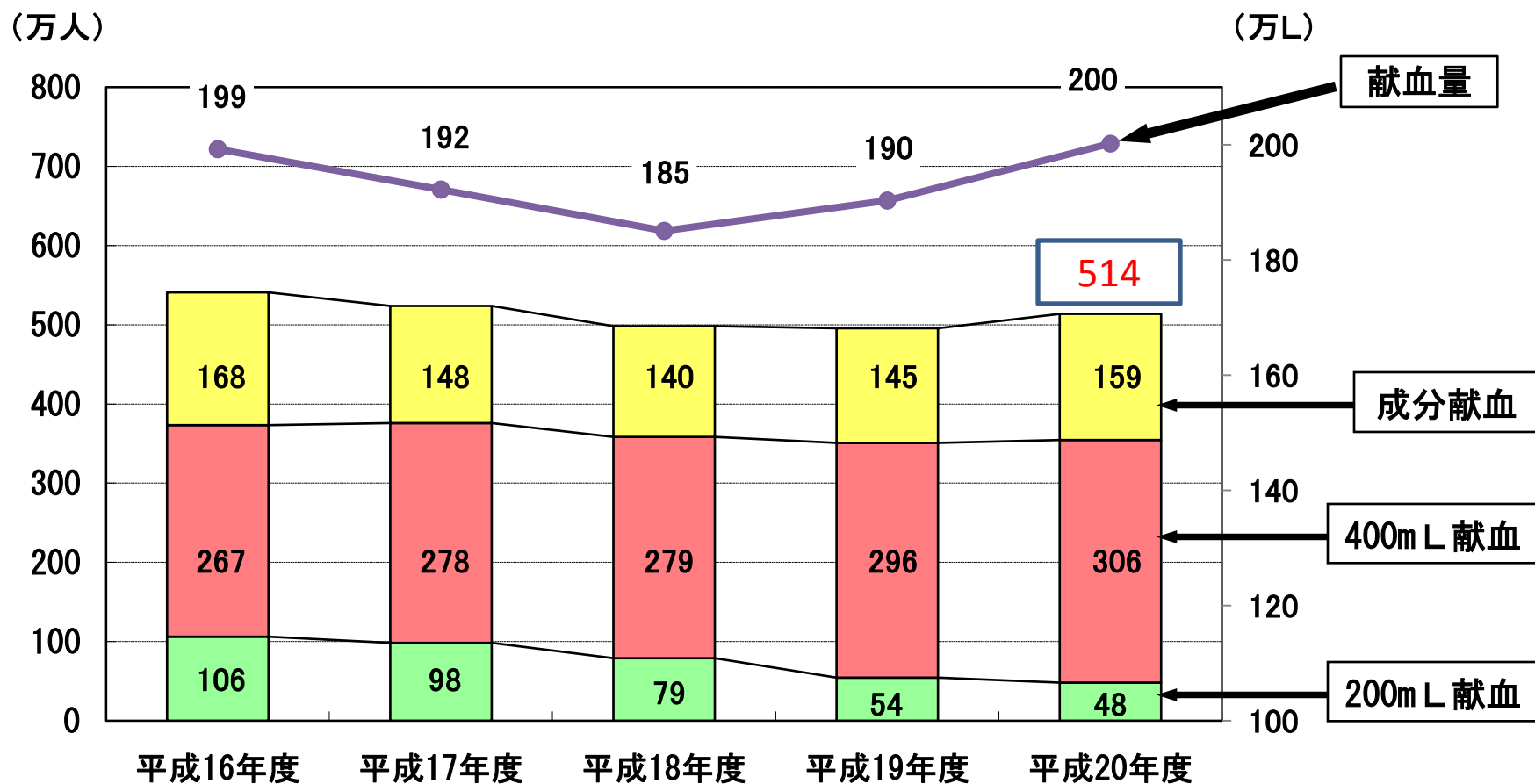
業務 …… ①採血業 (献血者からの採血)

②製造業 (検査と血液製剤の製造)

③販売業 (医療機関などへの供給)

# ①血液事業における採血業 (献血者からの採血)

# 献血者数及び献血量の実績



対前年度比  
(献血者数)

96.5%

96.8%

95.1%

99.5%

**103.7%**

# 献血者確保対策

## (1) 献血構造改革 (平成17年度からの5カ年計画)

### ○複数回献血協力者の確保

「複数回献血クラブ」を運営し、携帯電話やインターネットを通じて、献血や検査結果に関する情報を届ける等の付加サービスを提供し、更なる会員の募集に努めました。

### ○若年層献血者等の確保

血液センターの見学会等を通じて献血の必要性を学び、将来の献血者の開拓を行う「青少年献血ふれあい事業」や「若年者献血セミナー事業」を実施しました。



## ○献血協力組織育成研修

献血協力団体、献血推進団体、学生ボランティア団体等の組織の育成と相互連携の強化を図りました。

## ○献血協賛企業活動推進

協賛企業の証として引き続きロゴマークを企業や団体に発行し献血活動の普及、推進を図りました。



献血サポーター  
ロゴマーク

## (2) 血液事業広報

少子高齢社会や医療のニーズに対応しつつ、広く国民へ向け、全国キャンペーンの実施や各種広報媒体を活用し、積極的な広報活動を展開しました。

- 「愛の血液助け合い運動月間」(7月)
- 「第3回いのちと献血俳句コンテスト」(10～2月)
- 「全国学生クリスマス献血キャンペーン」(12月)
- 「はたちの献血キャンペーン」(1～2月)
- 「春の献血キャンペーン」(3～4月)




# (3) 献血者サービスの向上

## ○検査項目の見直し

献血者の健康管理に役立てていただくため、時代に即した検査サービスを目指し、新たに**糖尿病関連検査項目**であるグリコアルブミン検査を平成21年3月から開始しました。



「検査成績のお知らせ」に糖尿病関連検査が加わりました。

<http://www.jrc.or.jp> 

プレスリリース 日本赤十字社 血液事業本部

### 献血で糖尿病チェック！

日本赤十字社では、来年3月中旬より献血者全員に**糖尿病関連検査**を開始します

現在、日本における糖尿病患者は、予備軍も含めると約1,870万人といわれています。生活習慣や社会環境の変化に伴って急激に増加している糖尿病は、初期段階では、自覚症状がない場合が多いため、気づかずに放置されていることが少なく、長期治療せずにいると糖尿病が悪化し、やがて神経障害や網膜症等の合併症を起こします。糖尿病の予防には、ご自身の血糖値を定期的に検査することが有効であるため、日本赤十字社では、献血者にお知らせする検査成績への糖尿病関連検査項目の追加を検討してまいりました。そして、平成21年3月中旬よりグリコアルブミン検査を開始いたします。

**【グリコアルブミン検査】**  
グリコアルブミンとは、血液中に存在するアルブミンというタンパク質が血液中のブドウ糖(=グルコース)と結合してできる物質です。グリコアルブミンは血液中のブドウ糖量(=血糖値)とその値が続いた時間に比例するため、グリコアルブミンを測定することで血糖値の変化を間接的に知ることができます。グリコアルブミンは過去の2週間の平均血糖値を反映しているといわれています。

**【取材のご案内】**  
検査開始日が決まりましたら、平成21年3月上旬に日本赤十字社辰巳ビル(東京都江東区辰巳2-1-67)におきまして**金見並びに船政公園**を予定しています。近くなりましたら再度、ご案内申し上げますので、よろしくお願いいたします。

●お問い合わせ●  
日本赤十字社 (東京都港区芝大門 1-1-3)  
血液事業本部 経営企画課広報担当 土田 電話 (03) 3437-7507 (ダイヤルイン)

# ②血液事業における製造業 (検査と血液製剤の製造)



## 安全対策(各種検査を含む)

### ○核酸増幅検査（N A T）の精度向上

従来に比べ約3倍の精度の向上が期待できるN A Tシステムを8月に導入しました。

また、危機管理体制の充実、効率的運用を図るために、12月から新たに九州血液センターにおいてもN A Tを開始しました。

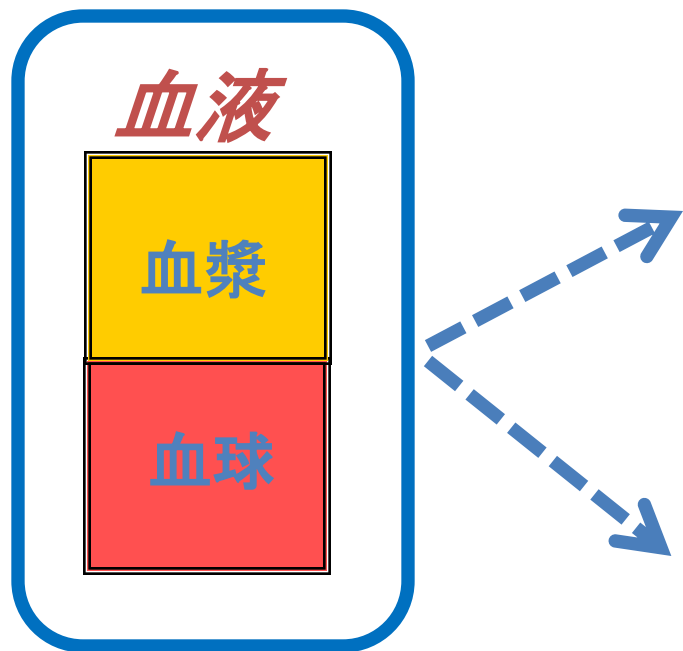
### ○輸血用血液製剤の感染性因子の不活化技術の検討

導入に向けて継続的に検討を行っており、国の「血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会」において経過を報告しました。

### ○新型インフルエンザ対策ガイドラインの作成

新型インフルエンザの発生に備え、プロジェクトを設置し、血液事業におけるガイドラインを作成しました。

# 製造1: 主な血液製剤



## 1. 輸血用血液製剤

①全血製剤

②赤血球製剤

③血小板製剤

④血漿製剤



## 2. 血漿分画製剤

①日赤ホリグロビン注5%

②赤十字アルブミン

③クロスエイトM

④抗HBs人免疫グロブリン



血漿分画製剤は北海道千歳市の  
血漿分画センターで製造しています。

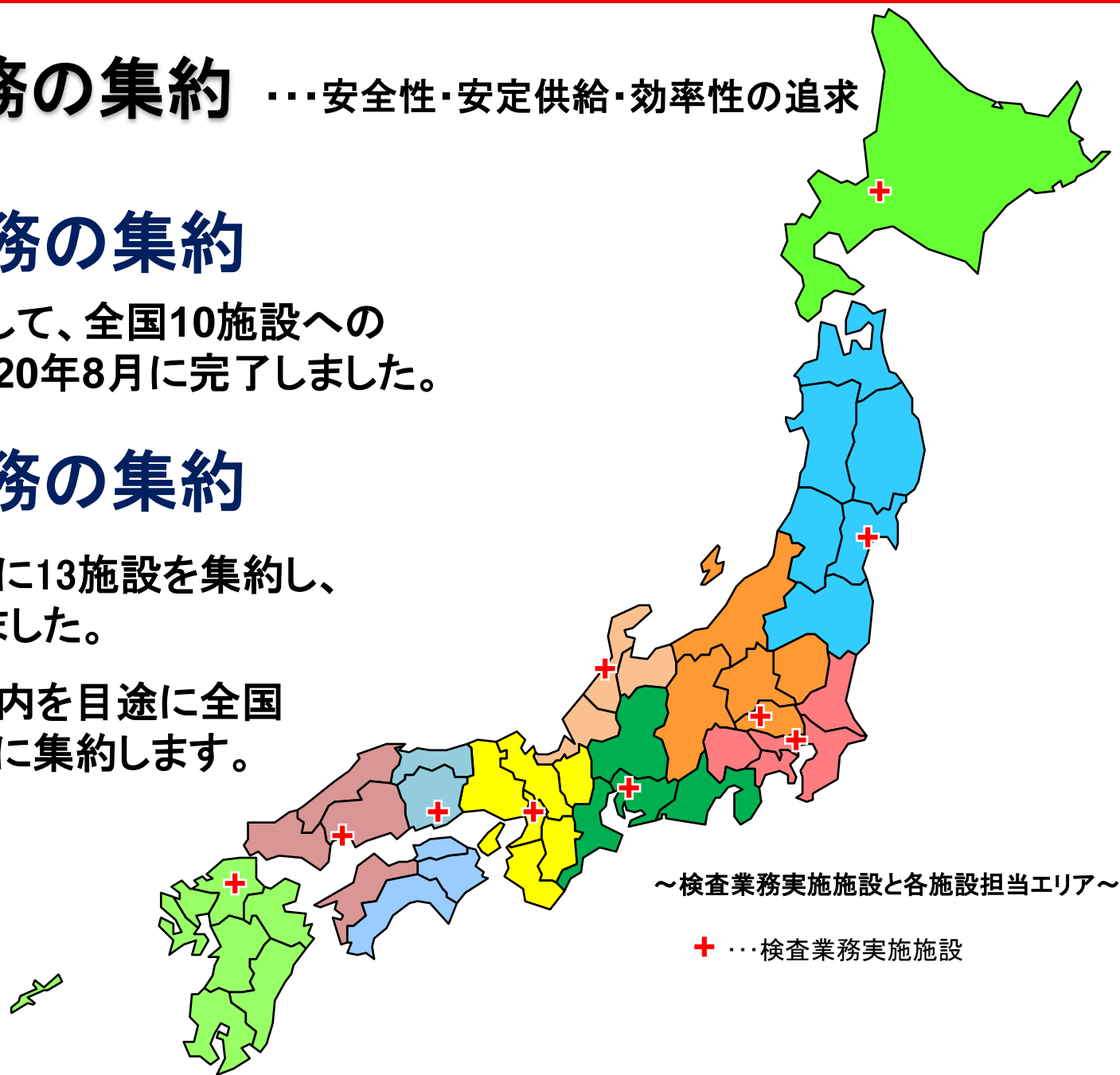
# 製造2: 業務の集約 ……安全性・安定供給・効率性の追求

## (1) 検査業務の集約

- 第一段階として、全国10施設への集約が平成20年8月に完了しました。

## (2) 製剤業務の集約

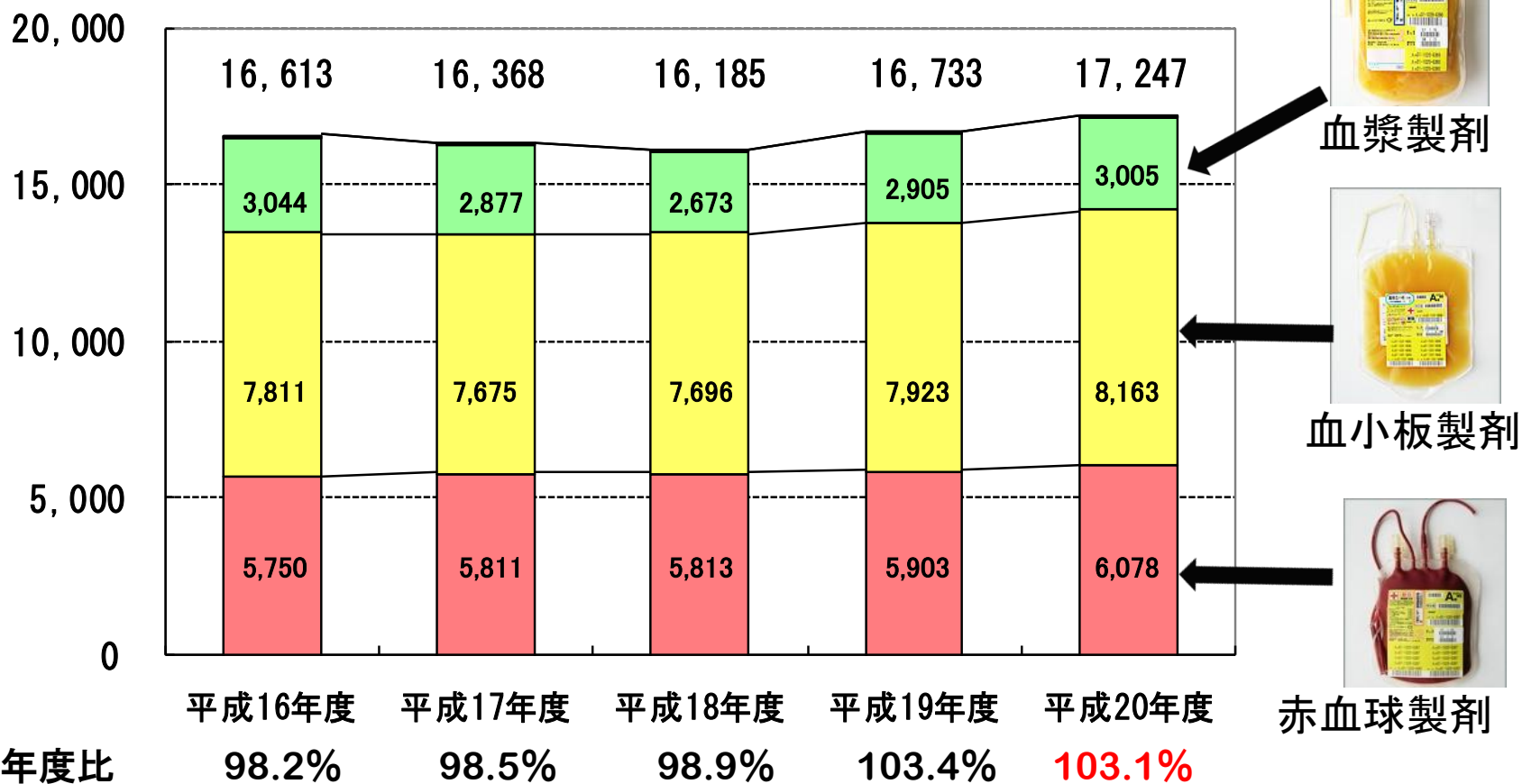
- 平成20年度に13施設を集約し、30施設としました。
- 平成25年度内を目途に全国11施設程度に集約します。



# ③血液事業における販売業 （医療機関などへの供給）

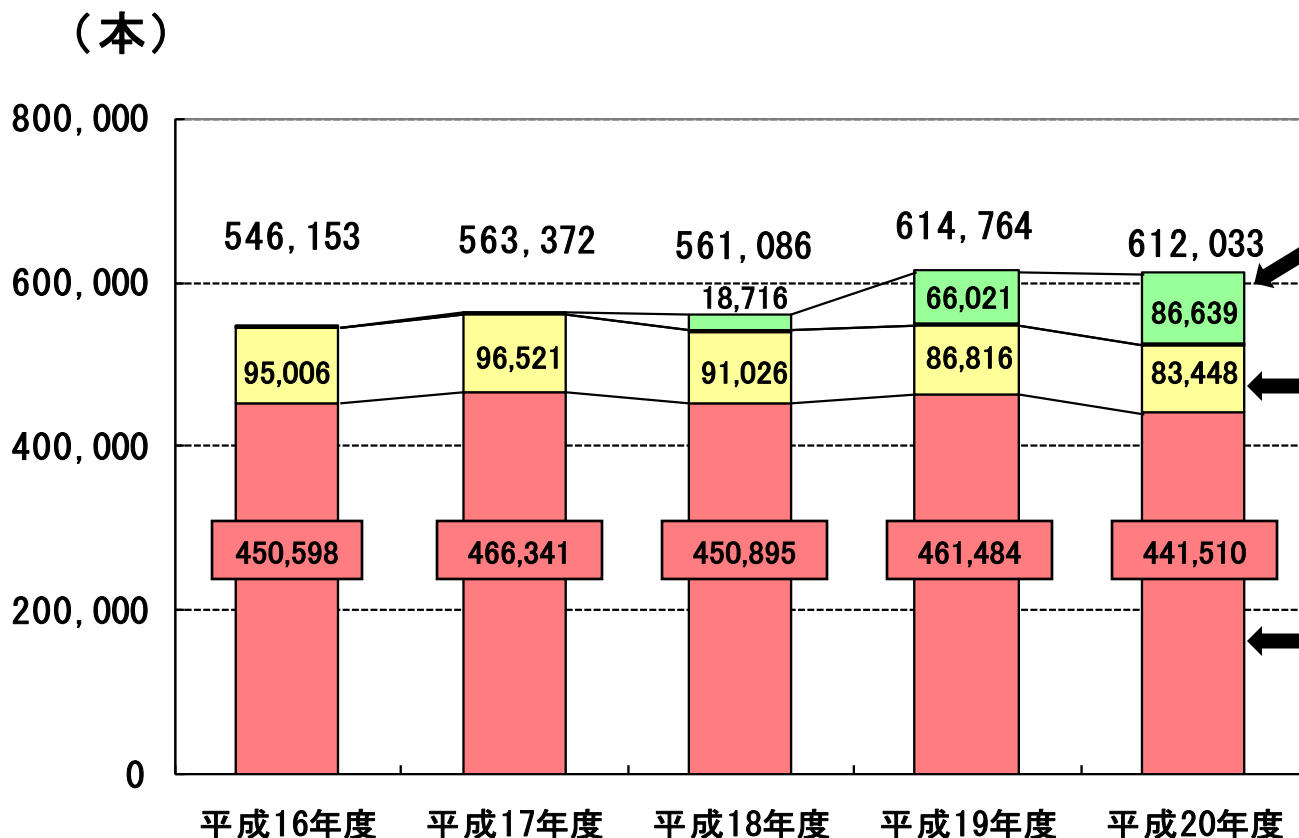
# 輸血用血液製剤の供給実績

200mL換算  
(千単位)



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

# 血漿分画製剤の販売実績



日赤ポリグロビン



クロスエイトM



赤十字アルブミン

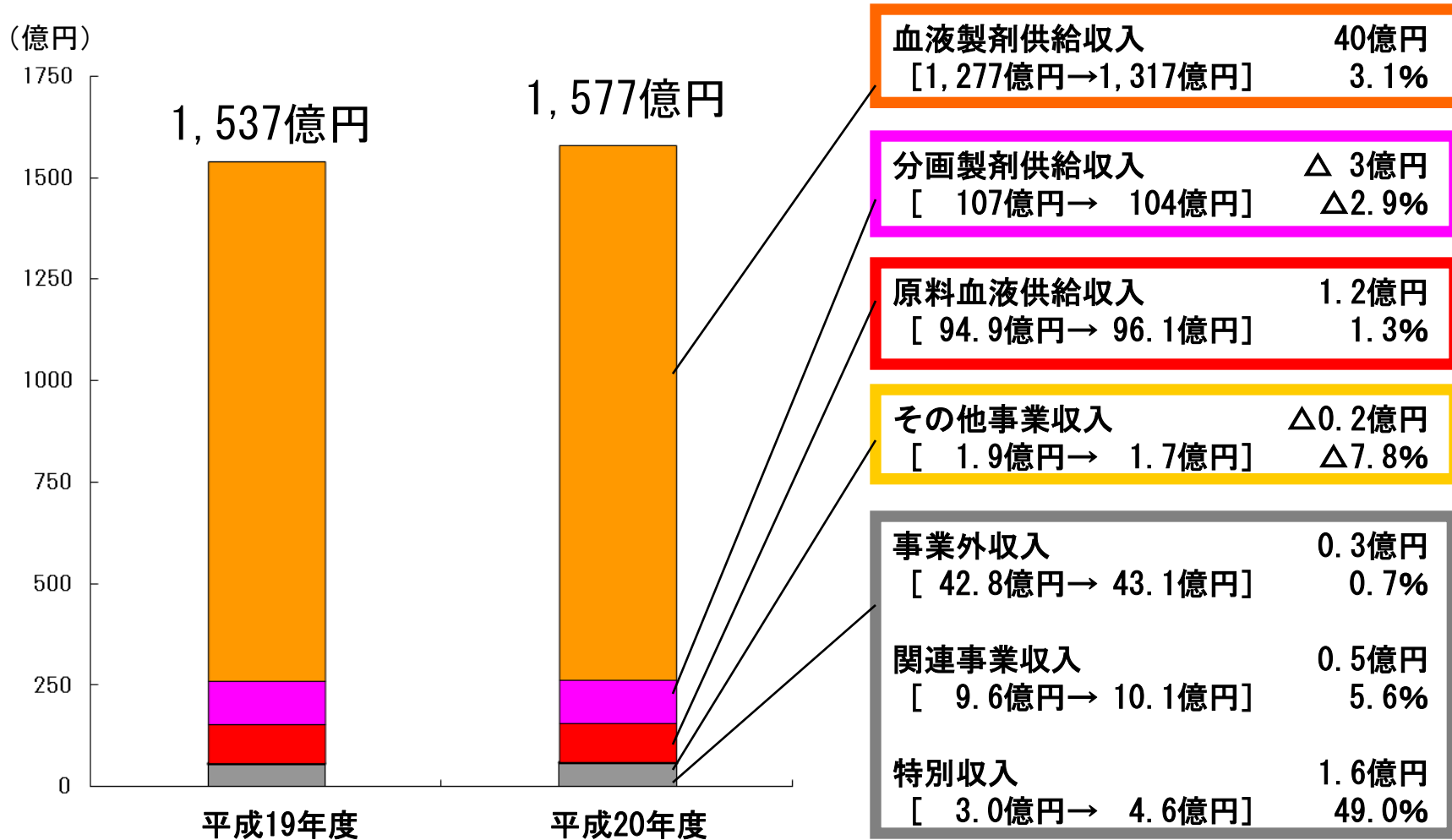
※抗HBs人免疫グロブリンは販売量が少量のため、グラフ上に表示されません。  
 ※日赤ポリグロビンN注5%は、2.5g/50mL換算  
 クロスエイトMは、1,000単位換算  
 赤十字アルブミンは、25%50mL換算

## 血漿分画製剤の国内自給率

アルブミン製剤 **60.7%**  
 グロブリン製剤 **96.0%**

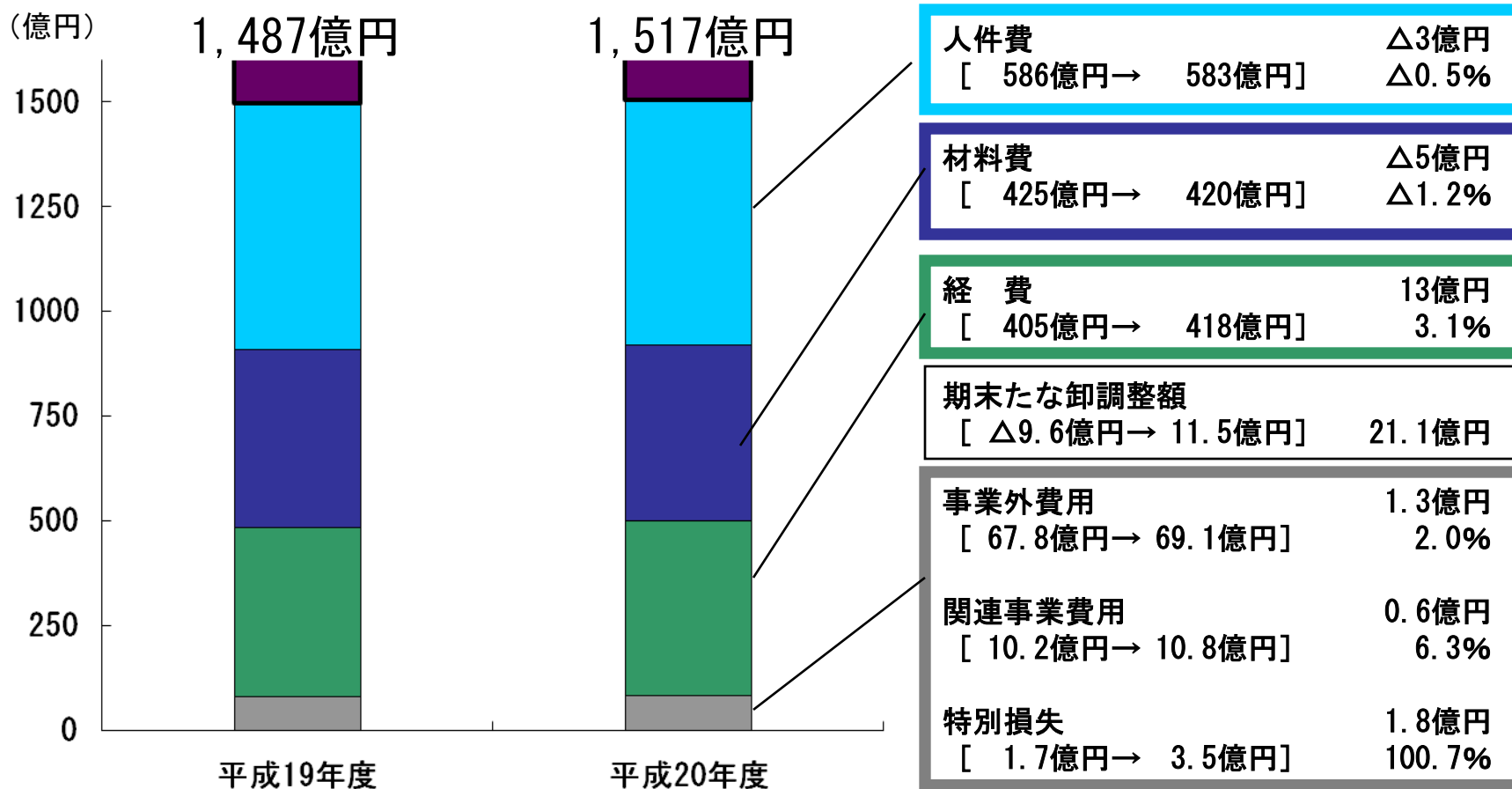
## Ⅱ． 歳入歳出決算について

# 血液事業特別会計 収益的収入のあらまし



	平成19年度	平成20年度	増減率
収益的収入合計	1,537億円	1,577億円	2.6%

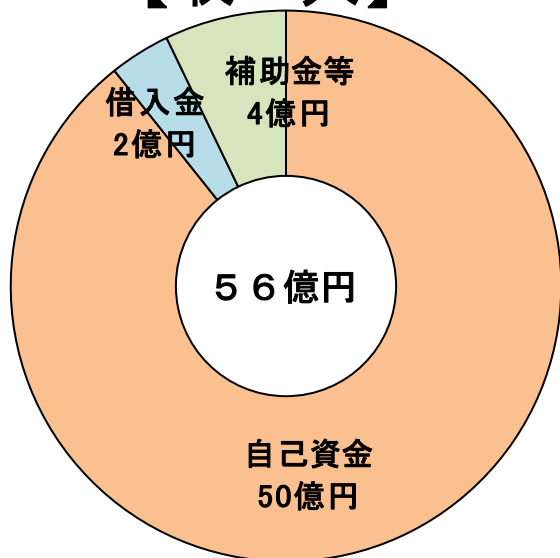
# 血液事業特別会計 収益的支出のあらまし



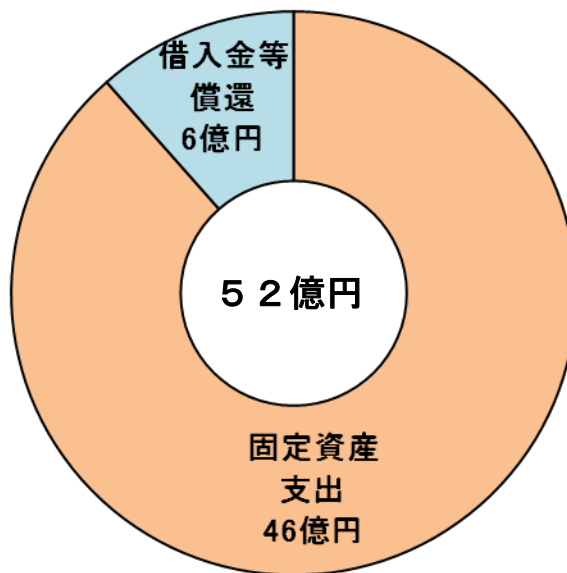
	平成19年度		平成20年度	増減率
収益的支出合計	1,487億円	→	1,517億円	2.0%
収支差引額	49億円	→	60億円	—
黒字施設	25施設	→	34施設	
赤字施設	25施設	→	16施設	

# 血液事業特別会計 資本的収支のあらまし

## 【収入】



## 【支出】



※資本的収支の差額は、3億8000万円で建設仮勘定として平成21年度に繰り越すものであること。

### 固定資産支出…施設整備の状況

内 容	金 額
東京都センターハチ公前献血ルーム・埼玉センター越谷レイクタウン献血ルーム施設整備等	2,011百万円
成分採血装置などの機器整備	1,992百万円
移動採血車、献血運搬車などの車両整備	420百万円
その他有形・無形固定資産の整備	172百万円

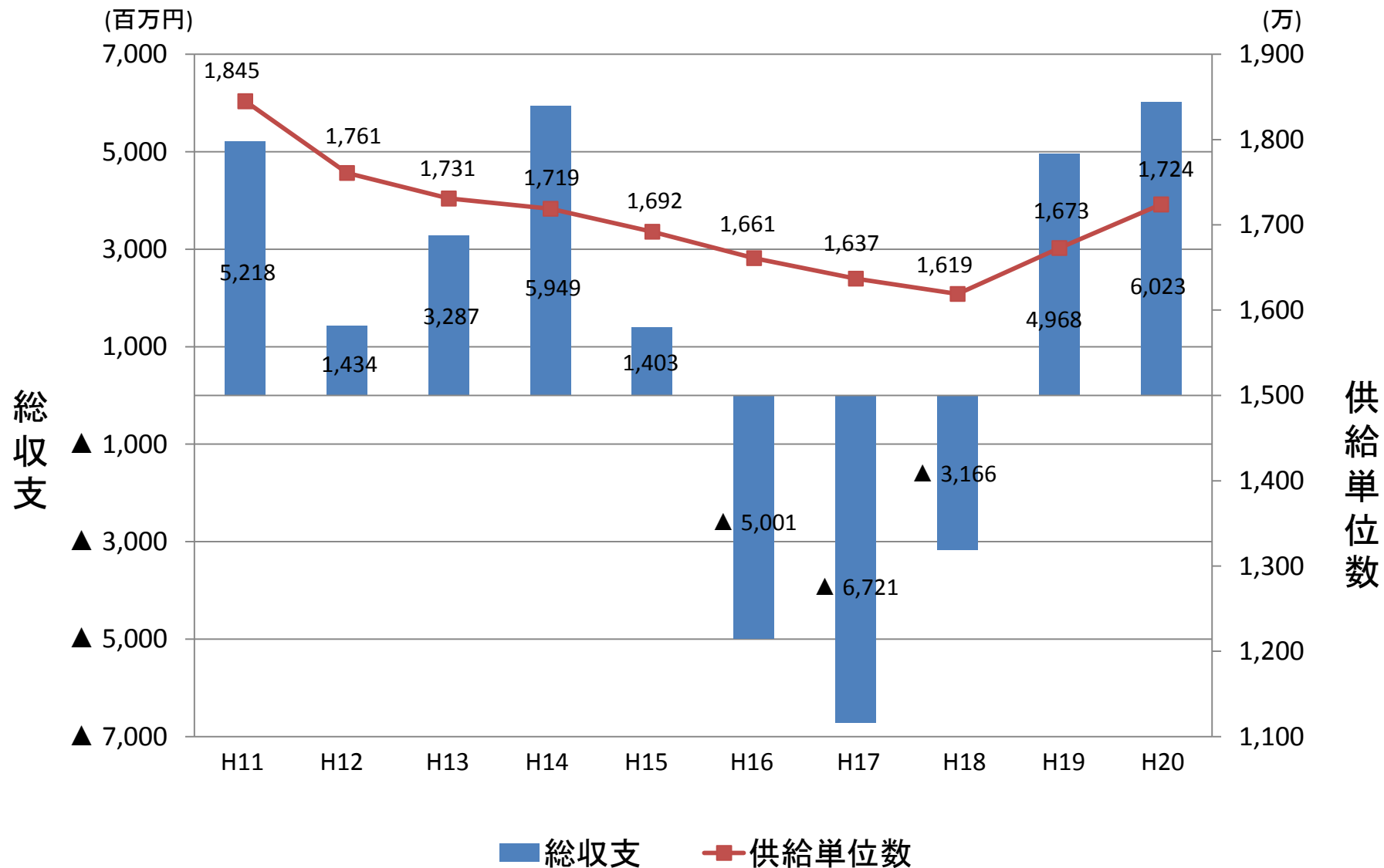
東京都赤十字血液センターハチ公前献血ルーム



埼玉県赤十字血液センター越谷レイクタウン献血ルーム



# 収支の推移及び供給単位数



# Ⅲ. 合理的・効率的な事業運営 の推進、健全財政の確立

# 血液事業の今日的課題 ～その1～

小規模血液センターにおける不安定な在庫状況  
が顕在化(参1)

具体的には

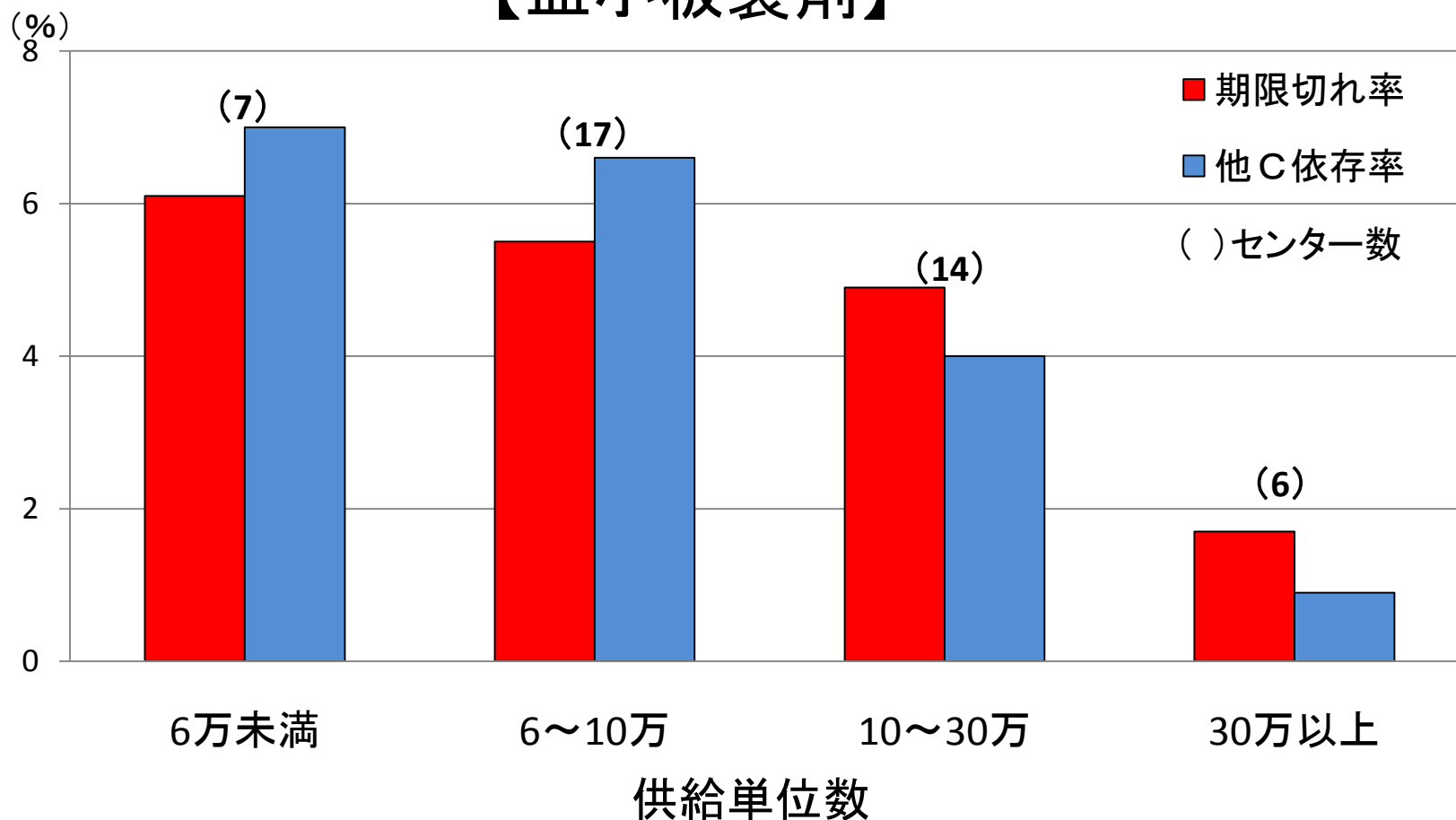
- ・血液製剤の期限切れが増加
- ・他(県)センターからの受入れに依存

(参1)

# 供給規模別の期限切れ率及び他(県)センター依存率

※平成19年度

## 【血小板製剤】



## 血液事業の今日的課題 ～その2～

今後更なる少子高齢化の進展により、献血者と受血者の間にアンバランスが生じ、結果として、血液の安定的な確保や医療機関への供給に支障を来たすことが懸念される。(参2)

(参2)

# 将来の都道府県別人口推移(15歳～64歳)

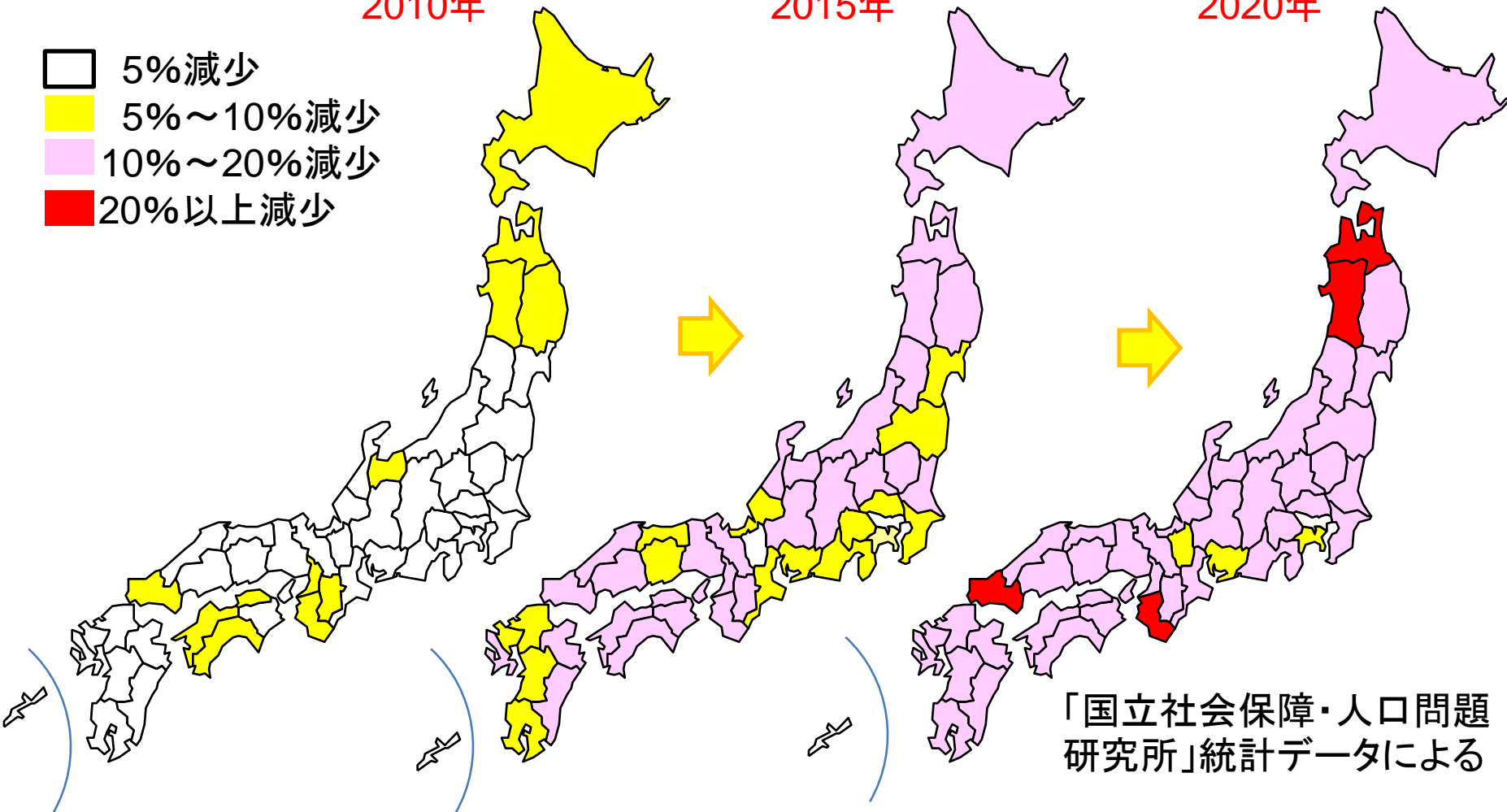
・・・2005年を基点とした減少率・・・

2010年

2015年

2020年

- 5%減少
- 5%～10%減少
- 10%～20%減少
- 20%以上減少



「国立社会保障・人口問題  
研究所」統計データによる

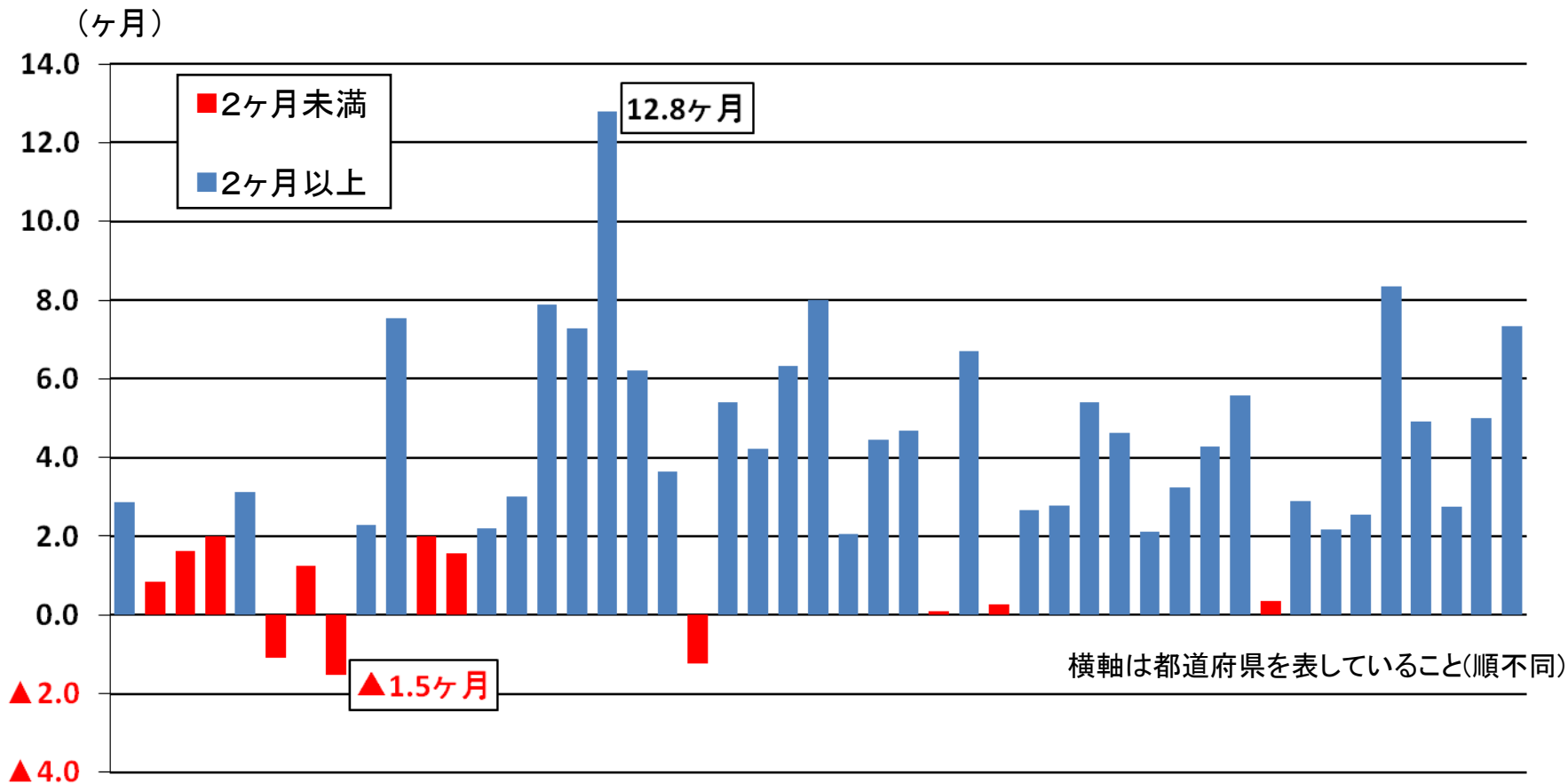
# 血液事業の今日的課題 ～その他～

- 適正使用の推進による供給量の減少
- 新たなウイルス等の出現に対する安全対策費用の増加(不活化など)
- 血液センター単位の非効率的な財政運営(参3)
  - ア. 内部取引による資金繰りの圧迫
  - イ. 施設の老朽・狭隘化への対応が困難
- 事業運営上の地域間格差拡大(採血・供給・財政等)

(参3)

# 血液センターの資金回転率

※平成20年度末



$$\text{資金回転率(ヶ月)} = \frac{\text{保有資金額(短期借入金を除く)}}{\text{1ヶ月必要資金額}}$$

これら血液事業を取り巻く環境の変化に  
適切に対応するためには、これまでの  
都道府県を単位とする事業運営では困難、  
との判断に基づき、平成20年8月から全社  
的な検討を開始。(参4)

(参4)

# 血液事業運営体制検討委員会

## ◆設置の目的

- (1) 血液事業における地域間格差の是正
- (2) 透明性のある健全な経営基盤の確立
- (3) 安全な血液製剤の安定的供給の確保

## ◆委員構成

本社幹部(5名) 血液事業本部(3名)  
支部事務局長(4名)  
血液センター所長・事務部長(5名)

## ◆開催回数

H.20.8.1～H21.3.12まで計7回実施

## ◆ 検討委員会における主な合意内容

- (1) 都道府県の枠を越えた広域的な需給管理体制の構築
- (2) 現行財政制度の見直し
  - ・独立採算制と財政調整制度の廃止
  - ・ブロック単位での財政一元化
- (3) 本社が関与するブロック血液(管理)センターの設置

# 新たな事業運営体制

## ブロック単位の事業運営

ブロック血液(管理)センター

事業単位の広域化により  
効率的な事業運営が可能

A  
血液センター

B  
血液センター

C  
血液センター

D  
血液センター

E  
血液センター

F  
血液センター

# 血液事業本部

全国を一元的に運営

北海道  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

東北  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

関東甲信越  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

中部  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

近畿  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

中四国  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

九州  
ブロック血液  
(管理)センター

地域血液  
センター

# 新たな事業運営体制整備に向けた今後の動き

- ・広域事業運営体制の導入
- ・ブロック血液(管理)センターの設置

これらの体制整備に向けた検討に取り組んで参ります。